

THE GRANPHONIC CONCERT 16th

グランフォニック第16回定期演奏会

2019年10月20日(日)
愛知県芸術劇場コンサートホール

主催 グランフォニック
後援 愛知県合唱連盟

ごあいさつ

本日はグランフォニック第16回定期演奏会にご来場賜り、誠にありがとうございます。我が団も今年でちょうど創立25周年になります。東西四大学OB合唱団東海として創立しましたが、現在は25以上の学校の主にグリークラブ出身者が集まる合唱団に成長しました。これも皆様方の応援のお蔭と深く感謝申し上げます。

今年はオリジナル曲、向川原 愼一作曲（一部作詩も）の「LA VITA～生命（いのち）～」に始まり、ワンステージメンバー19名を加えた往年の男声合唱の名曲、多田武彦作曲の「雪明りの路」、テアトロ管弦楽団と合唱団の賛助出演をいただき総勢130名強の「レ・ミゼラブル」を演奏します。本格的なオーケストラとの共演はもちろん初めての試みで、見事に歌えたら拍手喝さいをお願いします。

さて我が団も近年団員の高齢化は避けがたく、団員数も最盛期の59名から一時期は40名まで減りましたが、入団勧誘活動で50名まで挽回して来ました。もし皆様のお知り合いで名古屋に転勤で来られた合唱の好きな方がいらっしゃいましたら、ぜひグランフォニックをご紹介いただければ嬉しい限りです。

今日まで1年半練習を重ねて来ました。どうぞ最後までお楽しみください。

グランフォニック 団長 間瀬 譲

PRO

グランファーレ序曲

原詩：F. v. Schober

作曲：なりた まさと

指揮：小嶋 聡

ピアノ：はやせ ようこ



「LA VITA～生命（いのち）～」

作曲：向川原 愼一

指揮：向川原 愼一

ピアノ：はやせ ようこ

1. うつろい

詞：鴨 長明／ラテン語格言

2. こしかた

作詩：八木 重吉／向川原 愼一

3. かりのもの

作詩：藤場 美津路 詞：ラテン語格言

4. ききとして

作詩：八木 重吉／川崎 洋 詞：ラテン語格言

GRAM

stage 2

男声合唱組曲 「雪明りの路」

作詩：伊藤 整
作曲：多田 武彦

指揮：高津 眞司

- I. 春を待つ
- II. 梅ちゃん
- III. 月夜を歩く
- IV. 白い障子
- V. 夜まわり
- VI. 雪夜

..... 休 憩

3. 夢やぶれて
4. 対決
5. 星よ
6. 宿屋の主人
7. ABCカフェ
8. 民衆の歌
9. オン マイ オウン
10. 共に飲もう
11. 彼を家に
12. ジャベールの自殺
13. カフェソング
14. エピローグ

指揮：小嶋 聡

ピアノ：はやせ ようこ

賛助出演：名古屋テアトロ管弦楽団／合唱団

名古屋テアトロ合唱団指揮：上井 雅子

ジャン・バルジャン：小宮 俊英

ジャベール：永井 一美

ファンティース：加藤 恵利子（特別出演）

マリウス：榎本 真丈

アンジョルラス：中川 暢

テナルディエ：黒田 泰男

マダム・テナルディエ：番 美貴子（テアトロ合唱団）

エポニース：相良 由紀子（特別出演）

「レ・ミゼラブル」

原作：ビクトル・ユーゴー

作曲：クロード＝ミシェル・シェーンベルク

訳詞：岩谷 時子

編曲：小嶋 聡、竹田 大輔

1. プロローグ
2. 一日の終わりに

総合演出：井原 義則

照明：古川 靖（株若尾総合舞台）

音響：吉田 友和

舞台監督：磯田 有香

stage 3

LA VITA ～生命（いのち）～

詩人：高野喜久雄のことば

「生きるものはみな、不可視の高さからく生きよ」と命じられたものを生きている。あるいはその声に深く託されたものは何かをくりかえし問いなおし、しかもそれへのはてしない応答の如くにも生きている。」

うつろい

「うたかた」は「泡沫」と書いて水に浮かぶ泡。儚く（はかなく）消えやすいものを表します。地球の誕生が46億年前、ホモサピエンスの誕生が20万年前。こんな時間軸を眺めると、人間の長寿百歳もまさに刹那。若くて夭逝した人の人生も長寿を全うした人の人生も、言ってみれば同じように儚いわけです。でも、そのような＜時のうつろい＞の中での儚さではあっても、それぞれの人の人生にとって「死」は重要な意味を持つものです。いつ訪れるかもしれぬ「死」のことを忘れてはなりません。

Memento Mori（死ぬことを覚えていなさい）

こしかた

29歳で肺結核のため没した八木重吉を、この文冒頭の詩人：高野喜久雄は次のように紹介しています。「ひたむきな求道のいのちは、この地上をまさに一瞬の閃光のように通り過ぎた。（中略）平明な言葉の中に、つねに空と地上と自己を凝視し続けた真摯な魂は、当然の如く＜もっともよきことば＞としての聖書に向かい、神の声に耳を澄ませた」

「見上げる空が近くて、おそろしかった」と重吉は言います。忍び寄る死を漠然と予感した時、わたしたちは＜こしかた＞を振り返り＜ゆくすえ＞に思いをはせます。先に逝った

人々のことを忘れず、過去の苦い思い出や老いてゆく身体をものともせず、残された時間の中で、これまでに培った自分の力を信じていこうと、ひそかに決意するのです。

かりのもの

自分の立ち位置というものをありのままに受け容れよう、という「丁度よい」のテキストは一時、江戸の良寛作と言われたのですが、実は北陸の住職、藤場美津路さんのことばからの抜粋です。＜こしかた＞に対する劣等感や＜ゆくすえ＞に対する過度な思いを、軽くいなして肩の力を和らげてくれます。ラテン語の格言もこう言います。「生命は天が貸してくれているもの、ほんの一時期の預かりものなんだ。」と。この預かりものを大切にお返しする時まで、片肘張らずに生きましよう。

ききとして

60兆個ある人間の細胞は毎日のように入れ替わってリニューアルされています。その驚くべき生物学的なエネルギーが生きる力につながっているのでしょう。

それならば、ここも「われながら あいらしいところ」も、そのエネルギーを充分に使って「運命が許す間」今日から最期の日までの残された人生を「心ときめいてかけりゆけ！」「喜々として生きよ！」「新しいいのちを生きよう！」と歌います。

フランスの哲学者：ルソーのことば

「わたしたちは、いわば、二回この世に生まれる。一回目は存在するために、二回目は生きるために。」

（向川原 愼一）

1. うつろい

ゆく川の流れは絶えずして、
 しかももとの水にあらず
 涙みに浮かぶうたかたは、
 かつ消えかつ結びて
 久しくとどまりたるためしなし

(方丈記／鴨長明)

Omnia eunt more modoque fluentis aquae
 <万物は流れる川のように移ろいゆく>
 Memento Mori
 <死ぬことを覚えていなさい>

(ラテン語 格言)

2. こしかた

山のうえには
 はたけが あったつけ

はたけのすみに うずくまってみた
 あの 空の 近かったこと
 おそろしかったこと

(追憶／八木重吉)

過ぎし日の思い出が
 この胸の中駆けめぐる
 喜び満ちた日々も 悔やみ足りぬことも
 今はみな愛おしい
 ふるさとの景色、父母の顔
 失ったものは輝いて見えるか

怖れもなく突き進む 情熱がそこにはあった
 叶わなかった夢も 思いがけぬツキも
 運命とばかりは言い切れぬ
 今もこの体のどこかに潜む
 強い力を信じていたい

衰えの兆す頭と身体
 しかし
 心もとない姿でも
 どうにか今日もやっていけそうだ
 逝った友よ見ているか

見上げる空の 近かったこと

(向川原慎一)

3. かりのもの

ちょうどいい、ちょうどよい
 お前はお前で丁度よい
 顔も体も名前も姓も丁度よい

幸いも…不幸も…喜びも…
 悲しみさえも丁度よい
 歩いたお前の人生は 悪くもなければ
 良くもない
 お前にとって丁度よい

うぬぼれる要もなく卑下する要もなく
 上もなければ下もない
 死ぬ月日さえも丁度よい
 お前はそれは丁度よい

(丁度よい／藤場美津路)

Homo vitae commodatus non donatus est
 <人は生命を与えられたのではなく、貸されたのだ>

(ラテン語 格言)

命は天からの預りもの

4. ききとして

ほのかにも いろづいてゆく ところ
 われながら あいらしいところよ
 ながれ ゆくものよ
 さあ それならば ゆくがいい
 「役立たぬもの」にあくがれて はてしなく
 まぼろしを 追うて かぎりなく
 ところときめいて かけりゆけよ

(心よ／八木重吉)

Dum fata sinunt vivite laeti
 <運命が許す間、喜々として生きよ>
 Vive hodie
 <今日を生きよ>

(ラテン語 格言)

心臓から送り出された新鮮な血液は
 十数秒で全身をめぐる
 わたしはさっきのわたしではない
 そしてあなたも
 わたしたちはいつも新しい

いつも いつも
 新しいいのちを生きよう
 いま始まる新しいいま

(いま始まる新しいいま／川崎洋)

『雪明りの路』と伊藤整

小樽で生まれ育った伊藤整は故郷で中学校の英語教師となるものの、上京し、文学で身を立てたいとの希望は捨てきれず、自ら宿直を買って出て受験勉強をし直します。大正15年12月、一橋大学に合格し上京した整が21歳の時に出版された詩集『雪明りの路』は、その序で整が「此の詩集の大部分を色付けてゐるのは北海道の自然である」と強調しているように、塩谷や小樽近郊の自然や風土を詠った詩であります。しかし、同時に恋愛に対して鋭敏すぎるほどに鋭敏であった若き日の整の女性観や、彼自身の恋愛体験に基づいて書かれた「恋愛詩」とも言えます。

（詩集「雪明りの路」は116篇の詩から構成されていますがその4割以上が女性、恋愛をテーマにしています）後に書かれた自伝的小説『若い詩人の肖像』の中で整は次のように述べています。「あらわに恋愛感情を描いた何篇もの詩がその中にあった。夜、宿直室のストーヴのそばに据えたテーブルでそれを校正しながら、私は中学校教師の出す本にしてはまずいな、と思った。しかし、それ等幾篇かの恋愛詩を抹殺するのは、その1冊の詩集の命を消し去るようなことであった。そして250頁ほどの再考のゲラ刷りがかなりの厚さとなってテーブルの上に置かれた時、私はこの詩集の著者となる責任を負わねばならないと覚悟した。それは、やがて学校を辞めるつもりで同僚や生徒達の目に自分の恋愛を曝すことであった。」

北海道の自然。そして整自身の恋愛体験。『雪明りの路』は、この二つが平明でやさしい言葉によって綾をなす極めて繊細な抒情詩であり、かつて（数十年前に）同世代であった我々の共感を呼び起こさずにはおきません。

I. 春を待つ

雪の多い暗かった冬のある日、久しぶりに春めいた日差しのもとで春へのあこがれを語るように歌ってゆきます。

II. 梅ちゃん

幼友達であった梅ちゃんの家が焼け、酌婦として身を売られた彼女の痛ましい運命を吹き上げる炎が象徴します。若い整にとってはあまりにも鮮烈な出来事であったに違いありません。

III. 月夜を歩く

—ティチアーノ筆「白衣の女」の裏に—

「白衣の女」は盛期ルネサンスのイタリアの画家Tizianoによる「ラ・フローラ」の原題で知られている名画です。整は画集からこの一枚を切り取り、持ち歩いていたと告白しています。整はその絵に似た女性に想いを寄せており、夜陰に紛れて彼女の住む忍路村を徘徊します。切通しの上からその村を見下ろし、月の光を浴びて微笑む整の倒錯した心境が窺えます。

IV. 白い障子

温かい家庭の団欒の様子を描写しています。この組曲においては間奏曲的な役割を果たしています。

V. 夜まはり

夜回りをしながら様々な性夢を覗き見ている老人に、整は自分自身の姿を見出しています。生々しい夢を覗き込んで赤くただれてしまった目の奥には狂気じみ、犯罪じみた錯乱の気配すら漂っています。

VI. 雪夜

荒れ狂う吹雪、そしてそれが去った後の静かな青い雪明り。こうした自然の動きは整の精神的な混乱から安らぎへの移り変わりと綾をなすように織り込められてゆきます。

（高津 眞司）

I 春を待つ

ふんはりと雪の積った山かげから
冬空がきれいに晴れ渡ってある。

うっすら寒く
日が暖い。
日向ぼっこするまつ毛の先に
ぽっと春の日の夢が咲く

しみじみと日の暖かさは身にしむけれど
ま白い雪の山越えて
春の来るのはまだ遠い。

II 梅ちゃん

梅ちゃんの家は焼けた。
ぼくと遊んだ頃の
婆さんは死に
爺さんひとり居る藁家で
春の雪どけの晩
爺さんが酒をのんで火をだした。
火を吹いて 吹いて
あの藁家が崩れた。
春になって 草がまっ蒼にのびた頃にも
焼あとには黒い掘立杭が立ってゐた。
ぼくが十八の春、
梅ちゃんは小樽のげいしゃ。
あの藁家は燃えちまったよ。

III 月夜を歩く

ーティチアーノ筆「白衣の女」の裏にー

泣きやんだあとの様に
月が白い輪をもった夜更けて
私は
ひとり忍路の街を通りぬける。
切通しをのぼりきれば
海に見える さびれた家並みがある。
海は湾の内に死んで
灰色の脊を見せ、
家々は寝しづまってある。
そとに夜どほし立ってある桐の木の花が
甘く 鋭く匂ってある。
私は いくつも いくつも
塩風で白くなった板戸の前をすぎて
わるいことをするやうに
下駄の音をしのばせてそこを通りぬけた。
あ、 なん何のための

遠い夜道だったらう。
いたどりの多い忍路から出る坂路で
誰も知るまいと
私は白い月を顔にあびて微笑んでみたのだ。

IV 白い障子

風がひと吹きすぎさると
ざあっと
豆を撒いたやうに雨が屋根をたたく。
すゝで赤くなった室には
障子が立てられ
みんなは暖い夕食の箸をとる。
秋が来たので
白い障子の立てられた中で。

V 夜まはり

夜まはり 夜まはり
毎晩月夜に歩きまはるので
爺さんの目は赤くただれてしまった。
からん からん
人はふかく寝込み
夜はたいへん更けて
悩ましい夢が巷にただよってある。
からん からん
家の角は白くけぶって
人の知らない月影がある。
黒い装束に顔の大きな
爺さんの目は赤くたぐれてをった。

VI 雪 夜

あゝ 雪のあらしだ。
家々はその中に盲目になり 身を伏せて
埋もれてある。
この恐ろしい夜でも
そと窓の雪を叩いて外を覗いてごらん。
あの吹雪が
木々に喰って 狂って
一しきり去った後を
気づかれない様に覗いてごらん
雪明りだよ。
案外明るくて
もう道なんか無くなってゐるが
しづかな青い雪明りだよ。

ミュージカル

「Les Misérables (レ・ミゼラブル)」の誕生

ヴィクトル・ユーゴー (1802-1885) 原作のこのミュージカルは、流行歌の作詞家アラン・ブーブリルと作曲家クロード＝ミッシェル・シェーンベルクによって1980年にパリで舞台化され、1985年にはプロデューサーのキャメロン・マッキントッシュのもと改訂された舞台がロンドンにて初演されると、アメリカのブロードウェイをはじめ瞬く間に世界中を席卷しました。現代音楽ではあるものの全編を通しすべてを音楽・歌でつないでおり、同じテーマ（心情）が和音や調を変えて様々な場面にちりばめられているなど、20世紀のオペラと称してもおかしくはない舞台音楽が、今なお50か国以上で上演し続けられる理由の一つかもしれません。余談ですが、オペラといえば今回賛助出演いただく名古屋テアトロ管弦楽団／合唱団の第1回公演が「トゥーランドット」、その作曲家であるジャコモ・プッチーニ (1858-1924) も「レ・ミゼラブル」を題材にオペラを作ろうとしたのですが、原作は1500ページ以上、且つあまりに複雑なストーリーを前に諦めたそうです。

原作の「Les Misérables」について

日本では明治35年 (1902年)、黒岩涙香^{くろいわるいこう}によって「噫無情」^{ああむじょう}のタイトルで翻案されて以来、たくさんの翻訳家の方々により訳され長きにわたり親しまれています。原作は当時のフランスの時代背景も細かく描写されており、19世紀前半のナポレオン失脚、王政復古の時代から7月革命、そしてミュージカル後半に学生たちが奮起するクライマックスの場面である1832年の6月暴動などもストーリーに添えて記されています。フランス革命を担ったブルジョアジー（市民階級）のエネルギーの沸騰した時代、そして産業革命・近代化などにより人々が都市部へと集中し急激な変化と歪を生み、格差社会が犯罪者を生みだしてしまった時代、悲惨な人々を生む不完全な社会にユーゴーは危機感を抱き、そんな世の中を変えていかなければという信念のもと、この「レ・ミゼラブル」を書いた

と推測できます。この作品に登場するバルジャン、ジャベール、テナルディエ、その他すべての人物がこの時代の歪が生んだ哀れな人であり、もがき苦しみながらも必死に耐え抜こうとする生き様を見せています。混沌としたフランス、それが拡がりつつある世界の人々へ、何が救いの種になるのかを考えさせたかったのかもしれない。

「Les Misérables」のあらすじ (余談もまじえて)

1795年冬、ジャン・バルジャンは姉の7人の子供のためパンを1つ盗んだ罪で捕まり、翌年、南仏の地中海に面したトゥーロンへ投獄。脱獄を繰り返し19年服役。仮釈放中にある司教（原作ではミリエル司教という名）に出会い、銀の燭台をめぐる事件で司教の温かい心に触れ改心します（この時既に46歳）。ドーバー海峡にほど近いモントルイユ・シュール・メールに移りマドレーヌと名乗り、アクセサリー産業で成功を収め、やがて市長となりました（彼の建てた工場は、女性が貞淑に働けるようにとの配慮から男と女の作業場が別々の棟となっており、女性の棟の監督者ももちろん女性）。

マドレーヌと名を変えたバルジャンがすでに一大製造業者となっていた頃、ジャベールは警部としてこの街に着任しました。彼の両親が徒刑囚であり彼自身が監獄で産まれたことから、正義と悪しか接しておらず、彼の心の中にはその二つの選択肢しかありませんでした。ジャベールは生来の几帳面さ、まじめさ、実直さから、自ずと警察に入りました。権威に対する無条件の信頼と尊敬、反逆に対する憎悪と徹底した軽蔑という二つの感情しか持ち合わせていませんでした。この単純な心の構図が後の混乱と葛藤に繋がっていきます。

青春時代をパリで過ごしていた金髪の美女ファンティエヌ、想いを寄せる初恋の男性（資産家の息子で根っからの遊び人、この時30歳の学生！）の子を身ごもるも立ち去られてしまいます。子供を産んだものの生きるすべをほとんど知らず、望みを繋ごうと故郷モントルイユ・シュール・メールに帰ることにしました。ただ、自身の過ちは隠さなければとの思いから、途中のパリにほど近いモンフェルメイユという

村で、宿屋を兼ねた料理屋を営むテナルディエ夫妻へ自分の子供コゼットを預けます。地元に戻ったファンティヌは、マドレーヌの工場で働き口を得るも未婚の母であることを突き止められてしまい工場を追い出され、それでもテナルディエのエスカレートする要求に何とか応えていましたが、病気も患い、身の回りで売るものもすべてなくなり、最後には自身を売るものになってしまいます。

ある暴行事件で彼女の事を知ったバルジャンは、自身の配慮不足から彼女を不幸のどん底へと追いやってしまった事を悔い、彼女の一人娘コゼットをテナルディエから引き取り大切に育てます（ミュージカルではジャベールとの対決で逃げる事が出来ますが、原作では一旦捕まり服役中に逃亡に成功した後、コゼットを迎えに行きます）。その後修道院へ逃げ込み、コゼットの成長を見守りながら数年間平穏な時を過ごしました。

1832年（6月暴動の年）、パリは格差が広がる一方で、乞食たち、浮浪者たち、犯罪者たちなどが騒然とし混沌を極めていました。そんな中、秘密結社「A・B・Cの友」は民衆たちを動かし世の中を変えることを目的に、頭がよく切れ、カリスマ性と実行力のあるアンジョルラスを中心として活動していました。その中で女性に全くと言っていいほど興味を示していなかった貧乏学生のマリウスが、ある公園で見かけた老人と共にいた女性に突然恋をします。その女性を知りたいマリウスは、エポニーヌに彼女の家を探させ二人は再会します。エポニーヌ（テナルディエの長女）はコゼットもマリウスへ想いを寄せていたことを知ると、一人寂しく、悲しみに耐えながらパリの路を歩きます。

貧困層に同情を示し国民に人気のあった自由主義派のラマルク将軍の死により、暴徒化した群衆はパリの市街各地にバリケードを築き、アンジョルラスはその一つを主導します。情勢の不安やジャベールの影、テナルディエの影、すなわち、自分の過去を知っている者たちが迫ってきていることを感じ取ったバルジャンは、コゼットを連れて住む場所を移ります。マリウスは資産家である祖父に結婚の許しを得ようとしたものの、祖父自身の価値観を押し付けられた

ことに堪え兼ね飛び出し、すなわち後ろ盾を無くし、さらにもぬけの殻になってしまったコゼットの家で呆然とし、マリウスは戦闘が始まろうとしているバリケードに向かいます。

ジャベールはバリケード内の情報を得るためひそかに潜り込み学生たちの動静を見ていましたが、そこに参加していた浮浪児のガブローシュ（なんとテナルディエの息子！）がジャベールをスパイだと見破り捕まってしまう。その後、政府軍が大砲を打ち込み戦闘が始まりました。

（展開をより解りやすくするため、原作をもとにご紹介します）マリウスはコゼットを失った絶望感からなのか、なかばやけくそで戦闘に参加、敵を倒したものの残りの武器はなく、近くにあった火薬の樽を拾い上げ、バリケードもろとも爆破する！と叫ぶと兵士たちは一目散に退却しました。火薬の樽を拾い上げる時、彼に銃口が向いているのを見つけたエポニーヌは、その前に立ちはだかり自分に銃口を引き寄せました。戦闘後、倒れているのがエポニーヌと知ったマリウスは彼女を抱きかかえます。エポニーヌはコゼットの手紙を預かっていたこと、マリウスに恋を寄せていたことを告白し、彼の腕の中で静かに息を引き取ります（エポニーヌはマリウスを自分のものにしたいと、バルジャンに引っ越しをさせたりマリウスをバリケードに導いて共に死のうとしたり、実はすべて彼女の思惑でした。歪んだ行動も彼を想う純粋な気持ちから生まれたもの。そう行動させたのは歪んだ世の中にあったのかもしれませんが）。

1週間の後イギリスに経つことでしょう、というコゼットの手紙をみたマリウスは、バリケードで自分は死ぬ、魂はあなたのもとに、と記し、ガブローシュに返事の手紙を託します。ガブローシュは道の途中で会った男が届け先の住人だと知り、その男に手紙を渡しバリケードへ帰ります。受け取った男すなわちバルジャンはその手紙を読み、これでコゼットを自分から引き剥がそうとしている憎むべき男から解放される、コゼットと二人でまた幸せに暮らせるのだ、という感情が沸き起こる一方、より気持ちが沈み、より陰鬱になってしまいました。いっ

たい答えはどこにあるのか。その後バルジャンは、ひとりバリケードへ向かうのでした。

バルジャンがバリケードに加わり、持ち前の銃の上手さにより見張りの兵などを追い払い貢献します。そしてスパイ・ジャベールの処置を願い出て、あなたは自由だ、と言ってジャベールを逃がします。その後まもなく、バリケードの最期が訪れます。砲兵、騎兵含めた大部隊がバリケードに押し寄せ、圧倒的武力のもと鎮圧されてしまいます。その中でマリウスは必死に抵抗していましたが、銃弾が鎖骨を抜き意識を失います。その時バルジャンは倒れるマリウスを抱きかかえ、戦闘から抜け出し地下水道へ身を隠します。恐ろしく入り組んだパリの地下水道へも残党狩りの手が忍び寄りますが何とか逃げ切ります。ようやく出口を見つけますがカギがかかっており、どう力を込めてもびくともせず、巨大な地下のクモの巣という牢獄に捕らえられた形になってしまいました。その時カギを持って現れたのがテナルディエでした。カギを開けたければ山分けしよう、と言いバルジャンの持っていた金をすべてふんだくり、死体と思っていたマリウスの袖の一部を引きちぎり隠します（ミュージカルでは指輪ですね）。テナルディエにカギを開けてもらい、セーヌ川の土手に出て開放された自由の空気を吸ったバルジャンは、背後にいる男に気づきました。ジャベールでした。バルジャンは死にかけているマリウスを救いたいことを告げると、ジャベールは了承しマリウスを彼の祖父の家へ共に届けます（お気づきかもしれませんが、テナルディエはジャベールをここまで誘導し、下水道で突然現れた男から金をせしめた挙句、ジャベールに差し出したのです。どこまでも狡猾な男！）。

ジャベールはバルジャンの監視を止め、ひとり夜道を沈痛で苦悩の表情を浮かべながらセーヌ川へ向かって歩んでいきます。警察としての義務を果たさなければならない感情と、個人的な理由でそれを放棄すること、その個人的な理由の中に義務よりもはるかに崇高なものがあることをいままさに感じていること、理屈では説明できないものが心の中にあふれ出ていたのです。今まで自分を支えていた原理がバルジャンの前に音を立てて崩れてしまい、どうしてい

いかもはやわからず、神に辞表をとの思いから、ノートル・ダム橋の欄干から身を投げてしまいます。

死の淵をさまよっていたマリウスは、何週間も精神錯乱を伴った高熱が続いていましたが、数か月後ようやく起き上がれるようになり、祖父にコゼットとの結婚を認めてもらえました。そして無事結婚式を終えた翌日、バルジャンはコゼットとマリウスに幸せになってもらいたい、その一心でマリウスに自分の過去を告白します。自分は幸せの空間に入ってはいけない人間、去っていく人間であると。その告白にマリウスは動転し、誤解し、コゼットからバルジャンを遠ざけてしまいました。

コゼットの元へ行けなくなってから、バルジャンは気力も体力もどんどん落ちてきてベッドから起きられないくらい衰弱してしまいました。それでもコゼットとマリウスへの祝福と、自分がコゼットに与えた大金の出所を書き留めておくため、最後の力を振り絞りテーブルに向かい、司教から与えられた銀の燭台の灯りのもとでペンをとります。

その頃、マリウスの屋敷に一通の手紙が届き、差出人のテナールという男がやってきました。その手紙からマリウスはテナルディエだと瞬時に気づき、テナルディエの話からバルジャンが以前市長を務めたマドレーヌと同一人物であったこと、バリケードから自分を救い出してくれたことなどを知り、すべて自分の思い違いでバルジャンをコゼットから引き離してしまったことを悔やみ、急いでコゼットと共にバルジャンの元へ向かいます（ミュージカルでは結婚式の時にテナールという名前でテナルディエ夫妻が現れます）。そして命の炎が消えかけていたバルジャンに再開し、今までの誤解と真実をコゼットに語り、共に生きましようと呼かけます。しかし自分の死が近づいていることを悟っていたバルジャンは、共に幸せに生きるのだよ、とやさしく二人に語り掛け、二人に見守られながら天へ召されるのでした。

（小嶋 聡）

PROFILE

井原 義則 総合演出
Ihara Yoshinori



愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業、同大学院修了。ウィーン・ゲーテアニッシェスコンセルヴァトリウム卒業。

故洞谷吉男、故小島琢磨、神田詩朗、故木下武久、中田淳子、故ヒルデ・レッセル＝マイダン、児井恵の各氏に師事。

ドヴォルザーク「レクイエム」でデビュー後、ベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイヤ」などのミ

サ曲や合唱のソロを数多く務める。また、オペラ・オペレッタ・ミュージカルなどの主役を数多くこなし、いずれも好評を博す。リサイタル・ジョイントリサイタルをはじめ、その他のコンサートも多数。また、オペラ演出家としても好評を博す。

第2回名古屋市芸術創造賞受賞。第2回名古屋市新進芸術家海外研修員として短期留学。

1985年「ウェストサイド物語」のトニー役で、名古屋市芸術創造賞受賞。

1988年名古屋市新進芸術家海外研修員として、ウィーンに短期留学。

1989年から3年間、あらためてウィーンに留学。

愛知県立芸術大学非常勤講師、南山大学エクステンションカレッジ、NHK文化講座講師。

名古屋市昭和 문화小劇場芸術アドバイザー

向川原 慎一 指揮
Mukaigawara Shin-ichi



早稲田大学卒業。

現在グランフォニックをはじめ8団体の合唱指揮・指導、及び文化センターの講師を務めている。指導している団体や室内楽用の編曲、及び歌曲・合唱曲を中心とした作曲活動による作品多数。

特に多感で繊細な金子みすゞの一連の詩に取り組み、これまでに数十曲の独唱曲と女声合唱曲を作曲。その一部は2枚のCD録音と楽譜にして発表している。

2007年には奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門中田喜直賞の部で、

谷川俊太郎の詩「はる」に作曲した作品が最優秀賞を受ける。小林研一郎氏に師事。

小嶋 聡 指揮
Kojima Satoshi



千葉県千葉市出身。

幼少よりピアノを始め、主に歌とヴァイオリンの伴奏を独学で学ぶ。

大学進学後、慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団に入団。畑中良輔、大久保昭男、北村協一、綱川立彦、佐藤正浩各先生に薫陶を受け、指揮を角田銅亮氏に師事する。大学合唱の傍ら、慶應義塾中等部コーラス部を指導し、自身が中等部生のために編曲した、ミュージカル「レ・ミゼラブル」などを指揮。今でも後進の育成に努めている。

また、自らオーケストラ・合唱を主宰し、演奏会で披露、好評を博す。グランフォニックでは2012年より団内で最年少ながら指揮を務め今回で6回目の定期演奏会となる。

高津 真司 指揮
Takatsu Shinji



愛知県出身。

刈谷高校のクラブ活動で合唱と出会う。

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団に入団、学生指揮者を務め、木下保、畑中良輔両先生の薫陶を受ける。

指揮を北村協一氏に師事。

第15回定期演奏会では、副指揮者として「東京景物詩」を指揮し好評を博した。

今回は正指揮者としてワンステージメンバー募集の「雪明りの路」を指揮することとなる。

はやせ ようこ ピアノ
Hayase Yohko



愛知教育大学音楽科卒業、同大学院修了。

在学中より、名古屋二期会を始め、名古屋オペラ協会、三重オペラ協会など、主に東海三県にてオペラのピアニストを務め、現在はプロの伴奏ピアニストとして多数のステージに参加。

また名古屋芸術大学では長年にわたり、オペラ授業にて学生の指導に携わっている。

現在関わっている合唱団は5団体、そのほか、アンサンブルピアーチェメンバー、声楽グループPASSO A PASSO音楽監督、岐阜のチャリティコンサートでは毎年演奏と司会を担当している。

グランフォニックとは、連続13回の共演となる。

加藤恵利子 ソプラノ
Katoh Eriko



名古屋市出身。

名古屋音楽大学声楽学科卒業。平成30年度 芸術創造賞受賞。

これまでに歌劇「あしたの瞳（初演）」「ブラック・ジャック（初演）」（以上、作曲・指揮 宮川彬良）、オペレッタ「こうもり」（アデーレ）「伯爵令嬢マリッツァ」（リーザ）、ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」（修道院長）「ザ・ミュージックマン」（マリアン・パルー）「ライト・イン・ザ・ピアッツァ」（マーガレット）東宝ミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」等に出演。

また名古屋市内 名所旧跡での日本の歌ソロコンサートに出演。

Blog 加藤恵利子『うた、恋ふれば・・・』を公開中。

相良 由紀子 ソプラノ
Sagara Yukiko



東京生まれ。

慶應義塾中等部在学中より声楽を始め、同高校在学中 中山田真希氏に師事。

2006年にNGO国連クラシックライブ協会生命のコンサートミュージカル「赤毛のアン」少女アン役を務める。

2007年第12回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール入選。

その後東邦大学医学部へ進学、大学在学中にはアカペラグループで活躍し、現在都内病院耳鼻咽喉科医師として診療に従事している。

名古屋テアトロ管弦楽団/合唱団



2015年12月設立。主にイタリアオペラを上演するオーケストラと合唱団。
ソリストには、名古屋近郊で活躍もしくは、地元出身の歌手の方々をお迎えして共演。

オーケストラや合唱に参加するアマチュア演奏家自らが、イタリアオペラの素晴らしさを楽しむことを目的としている。
本格的なオペラ公演のほかに、チャリティーコンサートや教会コンサートなどを企画。2017年に設立記念「イタリアオペラ・ガラコンサート」を開催。2018年に第1回公演「トゥーランドット」、2019年に第2回公演「アンドレア・シェニエ」を演奏会形式で上演。2020年7月12日（日）に東海市芸術劇場 大ホールにて第3回公演「トスカ」を上演予定。現在、合唱団員（全パート）を募集中

名古屋テアトロ管弦楽団

Vn1 高橋 広 長谷 恵
桑元 紳 荒井 歩
荒井 恵二 松山 純
飯田 佳代 森 さとみ

Vn2 上北 洋 松江 美咲
村田 剛 神子 有理子
神子 卓也 小嶋 幸子

Va 本間 理恵 水野 久美
小南 美穂 鈴木 秀明 青山 泰子

Vc 小南 哲也 佐藤 美絵 三浦 洋子
熊田 由紀子

Cb 横山 知広 高木 美緒 秋山 ゆか

Fl 門野 富美子 小室 由樹 鳥居 悦子

Ob 山本 貴江 児玉 明菜

Cl 小林 双美 岸本 久美子 大野 歩美
岩室 みどり

名古屋テアトロ合唱団

ソプラノ 安部 紗智子 井上 祐三子 加藤 陽子
金子 理香 神取 公子 木下 道子
杉浦 恵美子 田中 幸芽 多和田 浩子
外山 佳子 長坂 笑利奈 永田 真弓
波川 和加子 番 美貴子 坂納 時子
安田 昌代 山口 陽子 山森 理子
上井 雅子

Fg 田中 由美 渡辺 友梨

Tp 竹田 大輔 蛭田 絵美 吉田 陽一

Hr 寺田 美里香 松下 美緒 矢藤 瑤子
住田 真梨奈

Tb 瀧 雅人 上井 隆志 岸本 圭史

Tub 酒井 一人 Timp 植田 誠

Drum 安藤 輝彦

Per 植松 沙也加 佐藤 祐美子

アルト 大熊 真知子 樺山 由美子 後藤 弘子
谷上 美保子 都築 史子 白水 美津子
長谷川 準子 間 朝希子 井上 千穂
黒澤 敦子 鷹嘴 佑扶子

テノール 磯田 桂司 伊藤 伸介 上田 卓賢
河津 秀治 西郷 隆治

バリトン 伊藤 悌司 中村 敦 野々村 浩史
藤井 英之



グランフォニック

およそ100年前に遡る大学男声合唱の歴史は終戦後の1950年～1970年頃に隆盛を極めました。学生運動の勃発や学生生活の多様化などで衰退し、1980年頃には廃部に追い込まれるような団体が続出しました。その後現役の学生合唱団は徐々に復活の兆しもありますが、隆盛期に学生時代を過ごした年代＝すなわち「男声合唱好き」の大学合唱団のOBは各地でみずから合唱活動を再開しました。25周年を迎えるグランフォニックはその先駆けの一つという自負があります。

もともとは関西学院グリークラブ、慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団、同志社グリークラブ、早稲田大学グリークラブの4団体で1952年（昭和27年）に結成された「東西四大学合唱連盟（通称：よんれん）」の東海地区在住のOBによって結成されましたが、今では全国の25を数える幅広い大学OBが集まって活動しています。定期演奏会は約1年半ごとに開催して今回が16回目、過去には畑中良輔先生や小林研一郎先生を招聘したり、たくさんのオリジナル作品を発表して、団の理念である「歌を通じて生きる喜びを感じ、伝えること」を心がけてきました。

平成から令和に替わった今年、創立25周年という区切りを迎えて、グランフォニックの特長と強みを生かしながら、これからも更なる高みを目指してまいります



The Granphonic

since 1994

1994年～2006年

- 1994年 5月 東海クローバークラブ
ハートビートコンサート3
(名古屋芸術創造センター)
- 1998年 1月 第1回定期演奏会
(名古屋芸術創造センター)
- 1999年 4月 第2回定期演奏会
(しらかわホール)
- 2000年10月 第3回定期演奏会
(名古屋芸術創造センター)
- 2001年 5月 韓国演奏旅行
(韓国・聞慶(ムンギョン)市)
- 2002年 3月 第4回定期演奏会
(名古屋芸術創造センター)
- 2002年 6月 梅雨の晴れ間のコンサート
(名古屋芸術創造センター)
- 2003年10月 第5回定期演奏会
(名古屋芸術創造センター)
- 2005年 5月 第6回定期演奏会(名古屋)
(名古屋市民会館中ホール)
- 5月 第6回定期演奏会(東京)
(銀座プロサムホール)
- 2006年 6月 男声合唱ジョイントコンサート
(愛知県芸術劇場コンサートホール)
- 11月 第7回定期演奏会
(名古屋市民会館中ホール)

2008年～2014年

- 2008年 5月 第8回定期演奏会
(愛知県芸術劇場コンサートホール)
- 2009年 5月 第2回
男声合唱ジョイントコンサート
(愛知県芸術劇場コンサートホール)
- 6月 第48回愛知県合唱祭
(愛知県勤労会館)
- 9月 第9回定期演奏会
(愛知県芸術劇場コンサートホール)
- 2010年 6月 第49回愛知県合唱祭
(稲沢市民会館)
- 2010年10月 京都ジョイントコンサート
(京都産業大学神山ホール)
- 2011年 5月 第10回定期演奏会
(愛知県芸術劇場コンサートホール)
- 6月 第50回愛知県合唱祭
(名古屋文理大学文化フォーラム)
- 2012年 6月 JOINT CONCERT in KARIYA
(刈谷市総合文化センター大ホール)
- 11月 第11回定期演奏会
(愛知県芸術劇場コンサートホール)
- 2013年 3月 第3回
男声合唱ジョイントコンサート
(愛知県芸術劇場コンサートホール)
- 2014年 5月 第12回定期演奏会
(愛知県芸術劇場コンサートホール)

2015年～2019年

- 2015年 6月 第54回愛知県合唱祭
(名古屋文理大学文化フォーラム)
- 10月 第13回定期演奏会
(愛知県芸術劇場コンサートホール)
- 2016年 6月 第55回愛知県合唱祭
(名古屋文理大学文化フォーラム)
- 8月 愛知県男声合唱フェスティバル
(刈谷市総合文化センター大ホール)
- 2017年 1月 第14回定期演奏会
(東海市芸術劇場大ホール)
- 6月 第56回愛知県合唱祭
(名古屋文理大学文化フォーラム)
- 2018年 5月 第15回定期演奏会
(東海市芸術劇場大ホール)
- 6月 第57回愛知県合唱祭
(名古屋文理大学文化フォーラム)
- 2019年 6月 第58回愛知県合唱祭
(名古屋文理大学文化フォーラム)
- 10月 第16回定期演奏会
(愛知県芸術劇場コンサートホール)

トップ

10名 最年少者29歳 最年長者79歳
平均年齢62.8歳

昭和20年8月15日、昭和天皇による「堪えがたきを堪え忍びがたきを忍び」という玉音放送をかすかに耳にした人は遂に2人となり、かなり若返りが進み、4パートの内で平均年齢の低さでは一番となりました。しかしながらこの2年弱の内4人退社（内1人は月1団員として残り）、2人入社（内1人は月1団員）で、レギュラーは8名と4パートの中で最小の人数となってしまいましたが、「俺が！俺が！」のトップの個性を殺し、パトリーダーを中心に時にはパート練習を行ったりしてトーンの統一化に努力しています。メロディー部分を歌うことが多いパートですので他のパートの足を引っばらない様に、美しい声で歌って行きたいと思います。

（小林 武）

セカンド

12名 最年少者38歳 最年長者83歳
平均年齢67.8歳

合唱のセカンドパートと云えば重厚なベース音に乗っかりトップのオブリガートを従え、いい気分でメロディを歌うカッコよさを想像する。ところが微妙な音程に常に苦勞したまに巡ってくる主旋律にホッと安堵しているのが実情である。こう書くについ敬遠したくなるパートと思うが、実は誰をも受け入れる優しい素地があり、口には出さぬが以心伝心、結束は固く研究熱心でお互いがそれぞれ認め合っており決して出しゃばらないよき風土がある。特にセカンドには団の中核を担っている団長、指揮者、副団長がおり、またグランフォニックの名付け親、世界を歩くボランティア、更に音源を配信するタレント等々多士済々であり、百花繚乱とちょっと自慢。片隅にいる小生などは居心地の良さについて長居しているが若い方々の土日の月一回団員でもよいので是非入団して頂くことが平均年齢を一番上げている者の切なる願いである。

（柴田 道昭）

バリトン

14名 最年少者49歳 最年長者78歳
平均年齢66.2歳

10名以下の時代が長かったのが、今や4パート中最大勢力に。昭和16年生まれの3人衆が頑張っている一方、現役世代も多く、仕事・家庭・合唱のやり繰りに苦勞している。歌うのは大好きだが高音が出ないし、低音も出ないので、まあバリトンでも、と言うの

が一般常識。だが曲によってテナーに寄り添ったり、ベースの重厚な音を支えたりと、幅広い動きが要求されるのが実情で、我がバリトンはその要求に十分応えて、指揮者からの信頼も厚いと自負している。今日は男声合唱ならではの重厚な響きを、バリトンの重要な役割にも注目して楽しんで下さい。

（寺島 正晃）

ベース

12名 最年少者33歳 最年長者81歳
平均年齢66.6歳

ベースパートは、創設以来「縁の下力持ち」として頑張っています。ベースあつてのグランフォニックと言っても過言ではないとベース全員自負しております。他のパート方からは最後に行き着く吹き溜まりのように思われてる人がいるようですが。また、メンバー全員が、低音の魅力で、世の女性たちをメロメロにできると勘違いしているようではありますが、人柄温厚で頼りになるメンバーが揃っております。更に付け加えておきたいのが、わが団で1番のパート練習とそのあとの飲み会が多いことです。仕事を離れ、趣味の合う仲間が人生の最後まで付き合える関係それが男声コーラスの最大の魅力でしょうか。これを読まれて、興味を持たれた低音保持者は是非一緒に歌いましょう。待っています。

（井ノ口 貴敏）

ワンステージメンバー

団員減少に歯止めを掛けるため我が団もワンステージメンバー募集を第15回定演から始めました。最初は12名参加、内2名入団、今回は20名参加です。体験入団の意味合いとは別に「雪明りの路」をもう一度歌いたい、それも芸文コンサートホールで歌いたいという方も参加してくれました。「ダンディライオンズ」さんから7名、愛教大男声OB3名、ワグネルOB3名、「男声合唱を楽しむ会」さん2名、「ヘンデル協会」さん2名、「Singersなも」さん1名、名古屋学院大グリーOB1名、「テアトロ合唱団」さん1名の参加となりました。総勢65名のステージとなります。

（間瀬 譲）

THE GRANPHONIC T¹

伊藤 高潤 鹿住 誠 小林 武
 黒岩 實 小宮 俊英 榎本 真丈
 高津 眞司 中川 暢 渡邊 瑞樹
 久野 照之

THE GRANPHONIC T²

石井 清 柴田 道昭 三ツ口 勝弥
 間瀬 譲 飯田 公男 神谷 立正
 小嶋 聡 松浦 治徳 河内 幸雄
 大村 元 高橋 淳一 栗林 満裕

THE GRANPHONIC B¹

寺島 正晃 細江 太喜雄 黒田 泰男
 水野 邦明 芝木 昌一 安田 俊哉
 天野 浩 稲熊 裕之 松永 鐘治
 木全 和明 荒田 武 石飛 均
 河田 征士 米村 壮和

THE GRANPHONIC B²

井ノ口 貴敏 浅井 良之 永井 一美
 外村 俊夫 松原 成憲 犬塚 弘道
 成井 詔彦 村上 信 木村 文隆
 羽原 知宏 石田 治 松井 則夫

ワンステージメンバー

T1	T2	B1	B2
浅井 裕之	石川 鈴雄	澤田 光隆	大嶋 順治
天野 甚一	伊藤 公夫	西尾 祥一	鈴木 清次
井坂 清徳	岩波 健夫	竹内 祥泰	林 純一
磯田 桂司	樋口 真一		福澤 慶太
	三宅 一弘		澤野 比呂志
			武田 睦夫
			樋口 義博
			森下 勝文

団長	間瀬 譲	指揮者	小嶋 聡
副団長	松浦 治徳		高津 眞司
	中川 暢		
渉外	荒田 武	パートリーダー	
合唱連盟	安田 俊哉		(T1) 中川 暢 (兼)
内務	羽原 知宏		(T2) 小嶋 聡 (兼)
			(B1) 細江 太喜雄
			(B2) 浅井 良之
パートマネージャー	(T1) 伊藤 高潤		
	(T2) 河内 幸雄	名誉団員・指揮者	向川原 慎一
	(B1) 石飛 均		
	(B2) 村上 信		

新団員募集中!

まずは練習見学にお越しください。
 全国25以上の学校の主にグリークラブ出身者が集まっています。

練習 : 毎週水曜日
 18:45~21:00
 月1回(日曜日)
 場所 : 金山 音楽プラザ他
 会費 : 3,000円/月
 (学生の方は半額)

指揮者 : 向川原 慎一 小嶋 聡 高津 眞司
 団員 : 20代から80代まで、約50名
 入団資格 : 男声合唱が好きな方ならどなたでも
 合唱経験者 大歓迎
 お問合せ : 間瀬 070-2228-4066

【お問い合わせ】

グランフォニック

検索

http://www.granphonic.com

THE GRANPHONIC CONCERT 16th

グランフォニック 第16回 定期演奏会

1st stage

「LA VITA～生命（いのち）～」

作曲／指揮：向川原 慎一

ピアノ：はやせ ようこ

2nd stage

男声合唱組曲

「雪明りの路」

作詩：伊藤 整

作曲：多田 武彦

指揮：高津 真司

3rd stage

「レ・ミゼラブル」

作：クロード＝ミシェル・シェーンベルク

訳詞：岩谷 時子

編曲：小嶋 聡、竹田 大輔

指揮：小嶋 聡

ピアノ：はやせ ようこ

特別出演：加藤 恵利子

賛助出演：名古屋テアトロ管弦楽団／合唱団

総合演出：井原 義則

照明：古川 靖（株若尾総合舞台）

音響：吉田 友和

舞台監督：礒田 有香

2019
10.20(日)

4:00pm開演(3:30pm開場)

愛知県芸術劇場コンサートホール

東山線または名城線「栄」駅下車、徒歩3分（オアシス21から地下連絡通路または2F連絡橋経由）

指定席：2,500円 自由席：2,000円

お問い合わせ：間瀬 tel:070-2228-4066
THE GRANPHONIC <http://www.granphonic.com>



「LA VITA～生命（いのち）～」

震災や津波などの天変地異、近しい人の訃報、思いがけない身体の異変や老いの実感。そうしたものにふいに接した時、あらためて「生命（いのち）の重さ」を噛みしめます。

私たちは、「生命（いのち）には限りがある」という誰もが避けては通れないこのことを、つい忘れがちになり、できれば目をつむっていたい、とも思いがちです。でも、きちんと「死」と向き合いながら、自分の現在の「生」を認識する大切さを、八木重吉や川崎洋の詩が語ってくれます。

これまでの自分の人生に誇りを持ち、今後の生き方の励ましになるために、この歌を歌います。

男声合唱組曲「雪明りの路」

男声合唱に関わりのある方ならば誰もが知る、作曲家、多田武彦氏の代表作の一つ。

多田氏は、北海道小樽近郊に郷里を持つ伊藤整が、そこに詩の背景を求めて書き、「雪明りをよく知り、永久に其処を辿るあの人々」に捧げた詩集「雪明りの路」より、春を待つ、梅ちゃん、月夜を歩く、白い障子、夜まはり、雪夜、の6編を抜粋して作曲。演奏される（された）頻度の極めて多いこのスタンダードナンバーをグランフォニックはどのように仕上げるのか？ 御一聴ください。

「レ・ミゼラブル」

六人の子を持つ妹の家族を救うため自らを犠牲にして一生懸命働いていたが、とうとう飢えに耐えかね、ガラス一枚向こうのパンを握ってしまった……そこから先はみなさんご存じの通りでしょう。

世の中が劇的に動く中だからこそ生まれた惨めな人々。それらの人々を狂った歯車から救うためには、愛情、そして慈愛しかない… ユーゴが伝えなかった本当の意味に想いを馳せながら、20世紀のオペラと称されるこの『レ・ミゼラブル』をオペラで一緒にしたテアトロ管弦楽団、合唱団と共に演奏致します。

井原 義則

Ihara Yoshinori



愛知県立芸術大学音楽学部
声楽専攻卒業、同大学院修了。

ウィーン・ゲーテアニッシェス
コンセルヴァトリウム卒業。

オペラ・オペレッタ・ミュージカルなどの主役を数多くこなし、いずれも好評を博す。ミサ曲や合唱のソロも数多く務める。

リサイタル・ジョイントリサイタルをはじめ、その他のコンサートも多数。また、オペラ演出家としても好評を博す。

第2回名古屋市芸術創造賞受賞。第2回名古屋市新進芸術家海外研修員として短期留学。

1989年から3年間、あらためてウィーンに留学。

現在、愛知県立芸術大学非常勤講師、南山大学エクステンションカレッジ、NHK文化講座講師。名古屋市昭和文芸小劇場芸術アドバイザー。

PR よこがお FILE

名古屋テアトロ管弦楽団/合唱団

2015年12月設立。主にイタリアオペラを上演するオーケストラと合唱団。

ソリストには、地元、名古屋近郊の歌手の方々を迎えて活躍の場を提供するとともに、オーケストラや合唱に参加するアマチュア演奏家自らが、イタリアオペラの素晴らしさを楽しむことを目的としている。

2017年「イタリアオペラ・ガラコンサート」、2018年「トゥーランドット」、2019年「アンドレア・シェニエ」を演奏会形式で上演。2020年は「トスカ」を上演予定。



新団員 募集中!

まずは練習見学にお越しください。
全国25以上の学校の主にグリークラブ出身者が集まっています。

練習 : 毎週水曜日 18:45~21:00
月1回(日曜日)

場所 : 金山 音楽プラザ
会費 : 3,000円/月(学生の方は半額)
指揮者 : 向川原 慎一 小嶋 聡 高津 眞司
団員 : 20代から80代まで、約50名
入団資格 : 男声合唱が好きな方ならどなたでも
合唱経験者 大歓迎
お問合せ : 間瀬 070-2228-4066